

猛暑という言葉が頻繁に使われたこの夏は、多くの人々が自然の脅威を身にしみて感じたのではないのでしょうか。8月末になればこの猛暑も一段落すると思っていましたが、相変わらずの暑さが続いています。そんな中、8月25日からは子どもたちの学校での生活が始まりました。朝会でも、暑さ対策として登下校時の帽子の着用、そしてこまめに水分補給をするように呼びかけました。また、今年は本格的な運動会練習の開始を9月中旬からとしているため、体育の授業でも長時間屋外で活動することはできるだけ避けるようにしています。

昨年の今ごろは、新型インフルエンザの対応に追われていました。今その頃のことを忘れてしまいそうになることもあります。暑さ、インフルエンザだけでなく子どもたちのまわりで起こる得る様々なことに注意を払っていく必要があると考えます。

## 【成長の場】

子どもたちに、「好きなことを見つけよう。してみたいと思うことに挑戦してみよう。」という声かけをよめます。でも、「きらいなこともしてみよう。したくないことにも挑戦してみよう。」とはあまり言いません。

子どもたちが自から進んで物事に取り組み、その過程でいくつかのことを体得し、成長していくことはとても素晴らしいことです。一方、子どもたちの身近なところにそれぞれが成長できる場が意外にたくさんあります。それが、「少し面倒くさいと思うことやできればやりたくないことに取り組んでみる」です。いろいろなことに挑戦しても、どこかで行き詰ったり、嫌になってしまったりすることがありますが、結局は自分の弱さを克服できないことがその原因になっているのではないのでしょうか。好きなことやしてみたいと思うことをたくさん見つけることも大事ですが、今子どもの気持ちの中にある、「めんどろな事、できればやりたくないこと」の一つでも挑戦してみようとする気持ちになれることで、一歩前進、少しの成長が実感できるようになるはず。8月25日の朝会で、自分が「面倒だと思うことやできればやりたくないと思うこと」に少しでも向き合っていくことの大切さを伝え、自分もそうありたいと話しました。

## 【「調子に乗って・・・」ではすまないこと】

音楽の授業や朝の会で子どもたちは歌う機会がたくさんあります。歌うときにはその歌のメロディーや詩を自分なりに理解し、感じる事が大切であると思います。多くの子どもたちがきっとそのような気持ちで取り組んでいると思うのですが、ときどき興味が他に向いてしまい、その詩を適当におもしろおかしく替えて歌う子どもがいます。見ていてすぐに分かります。その子は必要以上ににこにこしながら、いや、にやにやしながら歌っているのです。本人は楽しいのでしょうか、学びの場にはまったくふさわしくない行為です。当然、教員から個別に声をかけられることとなります。授業の流れはこういうことによって本来必要のない方向に進んだり途切れたりします。まわりの子からは冷ややかな笑いが起き、「またあの子か・・・」と思われることも多いはず。あとで本人と話をすれば、「調子に乗ってやっちゃいました」という反省の弁が聞かれます。替え歌を作る力があるのであれば、その力をもっとよい面で発揮できないものかと思うのは私だけではないでしょう。

## 【包容力】

「包容」という言葉の意味は「広い心で、相手を受け入れること」とあります。「包容力のある人」というような使われ方をすることが多いです。相手を受け入れるということの大切さは、誰もが理解していることでしょう。私も、教育の出発点は「子どもの今を受け入れる」ことだと考えていますので、「受容」「包容」ということがどれほど大切なことであるかは理解しているつもりです。

しかしながら、「心」というものは他の人に見えるものではありませんし、ましてや「広い心」と言われてもどの程度の広さが望ましいのかは分かりません。相手を受け入れるのにも限界もあるのではないのでしょうか。

子どもたちの世界を見ていても、きっと頑張って友だちのことを受け入れているのだろうけれども、もしかしたらそろそろ限界が近いのかもしれない、と感じることがあります。そうなったときに、子どもの口から出てくる言葉の一つが「許せない」というものです。そう聞くと、つい「もう少し頑張ってみようよ」と声をかけてしまいがちですが、実はそれまでに何とか相手のことを理解しよう、受け入れようと努力してきたことへの評価を忘れてしまいがちです。私はそこまで頑張った子は偉いと思いますし、相手を許せなくなった子を責めることはできません。考えなければならぬのは、許せないと思わせるもう一方の側の存在であるということです。それまで、何かある度に自分の力不足や問題のある言動を許してもらってきたことが当然であるという意識を変えることができないと、両者のギャップはますます大きくなってしまいます。また、そういう子に対する厳しい思いは、一人から二人、さらにはもっと多くの子どもが持つようになってしまいます。その後の人間関係がどのようになっていくかは、容易に想像できるでしょう。

相手を受け入れることの大切さと素晴らしさ、そして自分自身を知り自己を変えて行こうとすることの大切さを子どもたちに理解してもらい、日々の生活の中でそれを意識できるようにしていきたいものです。